

平成30年度大分県長期教育計画委員会 委員発言要旨

開催日：平成30年8月1日(水)15:00～17:00

場所：大分センチュリーホテル 2F 桜の間

NO	分類	発言
1	全体	達成率が悪い指標について、取組状況はあるが、1年間このまま待っているということなのか。モニターをどう行っているのか。取組が結果に対してどうであったのかを学校から出してもらうことが大切なのではないか。取組に対しての見直しを出してほしい。
2		基本目標2の「豊かな心の育成」と目標指標の「1ヵ月に1冊も本を読まない生徒の割合」など、施策と目標指標がダイレクトにつながっているかの確認が必要と考える。取組状況についても、何か促したのなら、促されたのかどうかの確認や、研修等を実施した後に、実際に取り組んだかどうかを調査したりすることなどが必要ではないか。
3		教師には、ある程度の子どもを見抜く力、観察する力が必要。子ども達に笑顔がでる授業を考えてほしい。
4	授業がわかると感じる生徒の割合(高校)	ノートを工夫して書くということ自体が相当難しい。生徒は、板書をノートに書き写すだけで精一杯になっているのではないか。ノートテイキングの指導が必要ではないか。
5		ノートは思考の道筋となるので、板書でその思考の道筋に沿ったものを提示できるかが大切。板書を工夫することにより、ただ転記するのではなく、どのように振り返れば今日の学習の確認ができるかを教える指導が必要。また、書くことが習慣化されるように、日常から書く指導を徹底することが大切。
6		(授業づくりのポイントである)6つのアクションを指導主事が学校訪問で指導する際、教員が必要を感じられるように、なぜそのようにするのかという理由や理論的なおさえをしっかりとしてほしい。
7		生徒によっては、板書をきれいに写しているだけで工夫していると答えていると思う。このアンケート項目に対する回答をもって、思考を深めていると判断できるまでは至らないのではないか。教師が生徒のノートを見て、工夫しているという判断した数値であれば、生徒が思考を深めていると判断してもよいと思う。
8		学問のどこまでを身に付けさせるかが大切ではないか。指標に対して、アンケートの質問項目がこれでよいのか疑問が残る。生徒にとって分かりやすい質問の方がよい。生徒が今、努力していることは何であるかを引き出すような質問項目に替えられないだろうか。(小・中・高校生が)自分の力で学んだり、体得しながら学んだりする経験が少なく、理屈では分かっているが、行動できない子どもが増えているように感じている。
9		教える側の技術的な問題があるのではないか。大学の講義においても、パワーポイント等を書いてあることをそのまま話したり、教科書等を書いてあることをそのまま伝えたりする講義は学生の評価が低くなっている。
10		生徒へのアンケート項目のうち、「目的意識」の数値が低いことも課題ではないか。指導主事の学校訪問の際などに、6つのアクションの中の「目標の明確化」に焦点化した指導をしていくことも必要ではないか。
11		アンケート調査では、同じ項目を継続して聞き、進捗を見ることも必要であるが、生徒や学校の状況の変化に合わなくなっているのではないか。「ノート工夫」の項目は、プリント学習が果たしてマイナス評価につながるのか。パワーポイント等を使った授業も増えてきていると思う。アンケートの項目を変えていくことも必要ではないか。
12		長期教育計画は9年間なので、授業の内容も変わり、IT化が進むなかで、「ノート工夫」という項目が本当に必要なのかと感じた。保護者の目線からすると、各学校現場において、各教師がそれぞれ工夫改善した授業をしており、大変努力をしていると感じている。
13		「授業がわかると感じる生徒の割合(高校)」がH28からH29にかけて10ポイントも下がるというのは、現状分析の中でまだ見出せていない何か他の要因があるのではないか。「目的意識」の項目が低いことが「ノート工夫」の項目へも影響しているのではないか。
14		主体的に学ぼうとする生徒の割合(高校)
15	高校生は、学校生活全般が将来の役に立つとは思っているが、授業の一つひとつが社会にどのように役に立つのかが見えていないのではないか。	

NO	分類	発言
16	主体的に学ぼうとする生徒の割合(高校)	日本全体を見ても、主体的に学ぶという数値は低くなっている。日本ほど学ぶ環境をきめ細かく提供している国はなく、よい環境で受動的に学習できるが生徒がお腹いっぱいになっている。「学びとは何か」といった本質的な問いかけを小学生から継続して行うことが大切ではないか。哲学的に考えさせるための工夫の余地があると思う。
17		「主体的に学ぼうとする生徒の割合(高校)」を調査するアンケート項目の中に、「宿題提出」の項目があるが、宿題を主体的な学習と捉えるのはおかしいのではないかと。また、アクティブラーニングについての項目も必要ではないか。
18	1か月に1冊も本を読まない児童生徒の割合(高校)	小・中学生と違い、高校生に、1か月に1冊の本を読ませる時間の確保は難しいのではないかと。目標指標としなくてもよいのではないかと。高校生段階になれば、個人の興味関心の有無に任せてよいと思う。
19		新聞を読まない子どもも増えていると感じる。高校で、朝読書をする取組は、非常によいと思う。読書をしないと、想像力・思考力を深めることが薄れ、語彙力が非常に少なくなる。生活の中で、言葉により知識を高めていくことは重要。本を読むことは重要。
20		学校図書館を活用した読書が少ないことは課題である。学校図書館に、子どもたちがリアルタイムに読みたい本が置いてあるのか疑問である。新聞を毎日読むということに関して、ニュースを新聞以外から取得する選択肢が広がっているなかで、今の時代に合っていない質問項目のように感じる。
21		大分市の小・中学校では、タイムリーな本を置くために図書選定委員会を毎年開催し、図書の入れ替えを行っている。また、新聞についても複数社の新聞を置くための予算措置をして、子ども達がいつでも新聞に触れられる環境を整備している。学校図書館は開館してないと子どもたちが使用できないので、図書館業務に専念し、児童生徒にふさわしい本を提供するため、司書教諭の専任配置をしてほしい。
22		スマートフォンの普及により、文字を読む時間・機会は増えたと思うが、やはり素晴らしい文章に触れてもらうためにも、読書をしてほしいと思う。
23	一定の期間、継続的に外国人と一緒に活動した経験がある生徒の割合(高3)	外国語について、まず話してみる、第一声を発声することのハードルが高いと考える。外国人と接してみてもいいから言葉を発してみるということが大切。これは教育現場の授業の中ではなく、留学生などを活用して、日常の中でできるとよいと思う。
24	不登校児童生徒の出現率(小学校)	児童生徒の不登校の要因の中の「教職員との関係」は、教師が回答する調査の結果では見えてこない部分もあるのではないかと。スクールカウンセラーについては、教員のメンタルヘルスへの対応も必要になってくると考える。
25	学力向上	全国学力・学習状況調査について、小学校第6学年時の状況から、その子どもたちが中学校第3学年になった時の対応を検討することも必要。
26	豊かな心の育成	子ども達には、地域に対する思い入れをもってもらいたい。国民文化祭が今年大分で開催されるという、せつかくの文化に触れられる機会なので子ども達に関わりをもたせてほしい。
27	通級指導教室	不登校の要因である学業不振については、原因が発達障害であることも多い。能力が低いわけではなく、適応障害という例が多々あると思う。しかし、通級指導教室が全ての学校に設置されているわけではなく、設置されている学校に保護者が子どもを連れて行かなければならない状況にある。公教育としての支援はもっと充実させる必要があるのではないかと。
28	通級指導教室	通級指導について、保護者が送迎しなければならないということは問題ではないかと。送り迎えができる保護者とそうでない保護者がいる。民間の支援員を学校に派遣することも検討したらどうか。例えば気持ちの切り替えが苦手な子どもが、保護者と合流し、車で向かう途中で眠ってしまい起きてすぐ通級指導を受けるようなケースも考えると、その後の指導でどの程度の効果があがるのかと考えてしまう。
29	その他	18歳が成人となる2022年に向けて、消費者契約トラブルの増加などが懸念される。高校に入ってから教育だけでなく中学校の教育で大人としての常識などを教える必要があるのではないかと。新たに求められる教育についての点検・評価について、対応を検討してほしい。